第114号
2020.9.18
富山県［立山博物館］

人と自然の情報交流誌

たてはく

令和2年度
後期特別企画展

戦国武将と立山

会期：10月3日（土）～11月15日（日）

いざ、戦国の世の「立山」へ！
乱世を生き抜いた人びとの知られざるヒストリー

戦国期の立山山麓はどのような状況に置かれていたのでしょうか。それを知るための手がかりとして「越中立山芦峅寺古文書」と「越中立山岩峅寺古文書」（富山県指定文化財）があります。戦国武将と地域社会との関わりを伝える貴重な記録です。

永禄年間の終わり、芦峅村・本宮村の百姓は、池田城主の寺嶋職定とともに上杉勢と戦います。秀吉は、佐々成政を討伐するため越中へ出陣した際、立山山麓の宗教的勢力を警戒しました。加賀前田家は、祈願所として芦峅寺と岩峅寺の宗教施設を造営・修復するかたわら、その勢力を支配するための方策に力を注ぎます。

このように宗教者である立山衆徒は「僧兵」でもあり、彼らは南北朝期にすでに桃井直常・直信から軍勢として見なされていました。彼らと戦国武将との駆け引きについては注目されてきませんでしたが、そこには戦乱の世を生き抜くための知恵とたくましい自立心をみることができます。

本企画展は、戦国武将が「立山」を支配した時代をとりあげ、立山山麓の人びとが戦乱の世をいかにして生き抜いたのか、その知られざる歴史を紹介します。

（高野靖彦）

第Ⅰ章　戦国前夜　南北朝の争乱のなかで
第Ⅱ章　池田城と中地山城　戦国期の芦峅寺
第Ⅲ章　秀吉の越中出陣　佐々成政と立山衆徒
第Ⅳ章　前田家三代と女性の祈り

会　　場　展示館１階　企画展示室
開館時間　9：30～17：00（入館は16：30まで）
観 覧 料　一般200円、大学生100円　※高校生以下は無料
会期中の休館日　月曜日（10/5・12・19・26、11/9）、11/4（水）　※11/2（月）は開館

展示解説会
10/3（土）・17（土）、11/7（土）　いずれも14:00～

目　次

令和２年度後期特別企画展「戦国武将と立山」 …… 1
令和２年度前期特別企画展「立山があるある展」を終えて …… 2
「立山曼荼羅」の新収蔵資料について …… 2
山岳集古未来館 資料紹介
　堀田彌一資料から－ナンダ・コートの装備⑨　オーヴァーミトン(2) …… 3
今年も県内の高校で出前講座を開催しました!! …… 3
催し物開催中止のおしらせ …… 4
立博オリジナルグッズが大人気！ …… 4
令和２年度文化講演会
　戦国の争乱と立山　―城郭が語る戦国史― …… 4
編集後記 …… 4

令和２年度 前期特別企画展 立山があるある展を終えて

未曾有のコロナ禍のため、展示会やイベントが中止となるなか、多くの方々のご支援をいただきまして開催となった「立山があるある展」。おかげさまで無事に閉幕いたしました。ご協力いただきました方々、また、お忙しいところご観覧くださいました方々には、心から感謝申し上げます。

いつか〈展示〉を通して紹介したいと思っていた「富山県の象徴としての立山」の有り様。具体的に構想を練り始めた昨年の秋から会議を重ね、企画展のタイトル「立山があるある展」を捻り出しました。

富山県のシンボルである「立山」。その雄大で神秘的な姿に、私たちは古から愛着や憧憬、畏敬を抱き、象徴として「立山」を捉える認識を歴史的に形成してきました。それゆえ「立山」は、古くから文学作品や絵画、音楽やデザインなどさまざまな「カタチ」で表現されています。大伴家持のように、古の人々は「立山」にどのような思いを込め、言葉に託したのか。横山大観を含め、人びとはどのようなイメージを「立山」に抱いて、絵筆に託したのか。現代に至っても、私たちの身の回りにある「もの」のなかの「立山」や、「立山」に憧れ、あやかりたいと願った人びとの思いは、どのような「カタチ」として表れているのか。

以上の視点から、古から現代まで人びとが「立山」に込めた「こころ」と「カタチ」を展示・紹介しました。

今回の企画展が、令和の時代における「立山」への新しい視点を提示し、広い視野から立山の文化的価値を見いだすことに寄与するならば幸いです。ありがとうございました。（森山義和）

会場風景

会場風景

「立山曼荼羅」の新収蔵資料について

立山博物館の特徴的な資料の一つに「立山曼荼羅」があります。その中でも、寄贈や購入により富山県所有となった「立山曼荼羅」11点が、国指定重要有形民俗文化財となっています（既指定、追加指定による）。このうち、富山県立図書館本は、長らく富山県立図書館が保管していましたが、国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」に追加登録されることに伴い、本年２月に当館へ移管されました。その際、名称も「立山博物館Ｆ本（旧富山県立図書館本）」に変更しています。

その他に、「寄託」という、資料を所蔵者から預かって保管するという方法があります。本年４月からは、「立山曼荼羅」志鷹家本（立山町）と中嶋家本（滋賀県）、藤縄家本（上市町）の３点を、新たに寄託資料として保管することになりました。なお、「中嶋家本」は、これまで「市神神社本」として紹介してきましたが、同神社宮司の個人所蔵であることが分かり、寄託手続きの際、名称を「中嶋家本」に変更しています。

新たに当館へやってきたこれらの「立山曼荼羅」は、展示する機会も増えることでしょう。今後は、さらなる調査・研究なども行い、皆様に紹介していきたいと思います。（細木ひとみ）

立山曼荼羅　中嶋家本

「立山博物館Ｆ本（旧富山県立図書館本）」は、12月15日（火）から開催の立山曼荼羅特別公開展「立山曼荼羅に描かれた神の依り代」において、展示館２階で展示します。

山岳集古未来館 資料紹介

堀田彌一資料から－ナンダ・コートの装備⑨ オーヴァーミトン(2)

今回は、山縣一雄の牛皮革製手袋を参照する。1936年10月5日、立教大學山岳部ヒマラヤ踏査隊の堀田（隊長）・山縣・湯淺・濱野・竹節とシェルパのアンツェリンは、印度ヒマラヤの未踏峰ナンダ・コートの頂上に立った。その、山縣と初登頂を共にした手袋である。

市立大町山岳博物館が収蔵するこの資料は、登録名称を「オーバー手袋（三本指）」（資料番号は「通番356、整理番号S35-6」）という。堀田のオーヴァーミトン同様、登頂時に手の装備の最外層を担った。

外殻皮革の接ぎ（ハギ）は、手部と前腕前部に手首で大きく二分される。手部は、①甲面～示指袋背面と三指（中・薬・小）袋背面、②掌面～三指（中・薬・小）袋腹面と示指袋背面および対向する拇指袋腹面、③拇指袋背面～拇指基部（腹面・背面）の三枚接ぎ。前腕前部は、④腹面、⑤拇指側側面（長矩形）、⑥背面、⑦小指側側面（楔形襠）の四枚接ぎ。計七枚接ぎで全体が構成される。

腹面の、手部と前腕前部との接続縫合に縫い込んだ（あるいは手部腹面（掌面）の下端を折返して縫い込んだ？）半月状のベロ（幅約8×高約3cm）を折返して手首（前腕前部）腹面に縫い付けたもの以外に補強当（アテ）はない。締帯は手首と穿口とを締める長短二本の平帯二組で、締金具（ピンバックル）のアンカーとなる短帯と端部手前に締め調節用の四穴を持つ長帯が一対（一組）を成す。長・短の平帯の基部は、前腕前部拇指側側面を成す長矩形皮革の腹面側縁縫合・背面側縁縫合に、それぞれ縫い込まれる。

裏地は「猫毛皮」。毛皮は襠裏を除いて指袋に至るまで裏全面に施される。同博物館の峯村隆学芸員（当該資料調査当時）は「調査記録」に次を記す。「毛糸手袋のオーバー。雪線以上で使用。保温性より柔軟性を主としたため内面に猫毛皮を使用。（山縣氏の手紙より）」。

概して大きな傷みは少ないが、腹面は左右とも表面が摩耗（手部で顕著）し、背面は右全体（手部で顕著）と左の指袋先端部が摩耗。右手用掌面のみ破損が著しく、同三指（中・薬・小）袋基部（掌部中央）に破損穴、同拇指袋腹面～示指袋腹面基部の股部分は大きく破損して外殻・裏地とも一部が脱落する。ザイルとピッケルの運用が原因だろう。摩耗領域と破損部分では施された含浸保革油が抜けている。

商標のない特注品で製作者は不明だが、サージ製ミトンと同様、美津濃配下の職人が製作に携わったのではないか。美津濃は当時既に野球グラブなどスポーツ用皮革製品の製作には充分な技術と経験を蓄積していた。

登山構想を纏めた山縣は、『1935年計画の概略㊙』（通称「山縣ノオト」）に、手袋について「ウールの五本指。帆布の２本指。犬皮のナメシタ奴の中側にラクダの織物を縫ひつけたもの。３本指にすると便利である。いづれも手首を長くする。その他に犬の毛皮のものを持参す。」と記す。

オーヴァー手袋としての用途は明示されぬが重ね穿きが前提の構想だろう。その着想の再構成と素材の再吟味から生まれた高所用手袋の一つが堀田のサージ製ミトンであり、もう一つが、山縣の皮革製三叉手袋だったのだ。当該装備を敢えて一つの製品に絞らなかったところに立教大學山岳部の柔軟な思考と現実的対応の姿勢が見てとれる。…だが、ミトンのヴァリエイションは、これのみに留まらなかった。

次回は、竹節作太隊員（大阪毎日新聞社・東京日日新聞社特派員）のオーヴァーミトンを参照する。（吉井亮一）

山縣一雄のオーヴァーミトン(市立大町山岳博物館蔵)
写真左：腹（掌）面観。写真中：背（甲）面観。写真右上：小指側側面（右手）。写真右下：穿口内面（右手小指側裏面）。全長（穿口から示指袋端または三指（中・薬・小）袋先端までの最大長）：32／31.5。全幅（指袋部最大幅）：14.5／13。手首接位置幅：12／11.5。穿口幅襠開［襠閉］：16.5／16［12／13］。楔形接布寸法：8／8［穿口底辺］13.5・14（掌側辺・甲側辺）／13.5（両辺同長）［斜辺］。平帯［上］寸法（帯長×帯幅）：23.5×1.5（基部2）／23.5×1.5（基部1.8）。締金具附属平帯［上］寸法（帯長×帯幅）：1.5×1.5／2.0×1.5。平帯［下］寸法（帯長×帯幅）：31×1.5／30.5×1.5。締金具附属平帯［下］寸法（帯長×帯幅）：2×1.5／1.5×1.5。締金具［上］枠寸（長辺幅×短辺幅）：2.7×2.2／2.8×2.2。締金具［下］枠寸（長辺幅×短辺幅）：2.7×2.2／2.8×2.2。重量（一組；大町山岳博物館の記載に依る）：320。以上の寸法標示は［右手用／左手用］、単位はcmまたはｇ。
＊山縣資料の写真掲載は市立大町山岳博物館の厚意による。

博学連携

今年も県内の高校で出前講座を開催しました!!

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、小中学校での立山登山の事前学習としての出前講座は全くありません。そんな中、富山高校からの要望を受け、７月６日に出前講座を行いました。今回は、特に“研究とは何か”をテーマに、その足掛かりとなるような内容で、との希望があったことから、わずかな手がかりから辞書やネット検索などで調べものをするワークショップも併せて実施しました。（鈴木博喬）

催し物開催中止のおしらせ

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、以下の催し物について、残念ながら開催を中止します。

楽しみにされていた方々には大変申し訳ありませんが、何卒ご了承ください。

来年度は開催予定ですので、またのご参加をお待ち申し上げております。

◆道者衆の接待　ー坊家御膳の再現ー

期　日：10月10日（土）

場　所：教算坊

◆もみじ呈茶会

期　日：11月1日（日）・8日（日）

場　所：教算坊

立博オリジナルグッズが大人気！

当館のオリジナルキャラクター、疫病除けとして知られる「クタベ」の缶バッジが人気を呼んでいます。最も多い日で200を超える販売数を記録し、4月から売れていない日がありません。くわえて、新たに制作したクタベのトートバックも人気を呼んでいます。

また、新たに国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」に追加指定された、「立山曼荼羅」大江寺本と立山博物館D本のクリアファイルを新規制作しました。是非一度ご来館のうえご覧ください。今後も新たな商品を展開するかも？しれません。ご期待ください。

参加者募集中

令和2年度文化講演会

戦国の争乱と立山

―城郭が語る戦国史―

戦国時代は、群雄が国々に割拠し、領地や生産物を収奪するための激しい戦闘が繰り広げられる時代でした。

越中における争乱の状況を概観し、さらには立山山麓の「城郭」に焦点を当て、武将と地域社会の関わりについて最新の研究成果を交えながら、わかりやすくお話しいただきます。

講　師：高岡　徹 氏
（越中史壇会研究委員・立山博物館特別企画展委員）

日　時：令和2年10月24日（土）
14時～16時（開場13時30分）

場　所：立山町元気交流ステーション みらいぶ 1階
（富山地方鉄道「五百石」駅舎）

定　員：35名（要事前申込）

聴講料：無料

申込方法：FAXもしくは往復ハガキにてお申し込みください（直接持参も可）。

締切り：**10月16日（金）当館必着**

※応募多数の場合は抽選とし、当選された方に個別に連絡します。

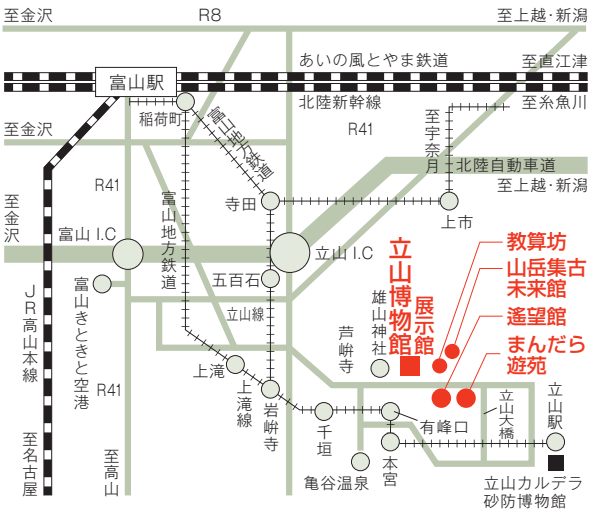
【おことわり】

本号に掲載する企画展・イベントは、今後、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、変更、中止、延期等の可能性があります。その際にはＨＰに掲載いたしますが、ご利用の際はあらかじめお問い合わせください。

編集後記

今年度は、企画展やイベントの中止が相次ぐ中、「立山があるある展」を無事に終えることができ、一息つけました。コロナ対策の人数制限や、徹底した感染防止対策の解説会など、いやおうなしにウィズコロナを体験することとなりました。まだまだウィズコロナは続きそうです。（鈴）

案内図



●最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩（約2km）
※日曜を除き町営バス運行
「雄山神社前」下車すぐ

●自家用車で
JR富山駅から　約45分
立山駅（千寿ヶ原）から　約10分
富山インターチェンジから　約35分
立山インターチェンジから　約30分

立山博物館のホームページはこちらから。

人間と自然のかかわり方を学ぶ
富山県［立山博物館］
〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峅寺93-1
TEL 076－481－1216　FAX 076－481－1144
http://www.pref.toyama.jp/branches/3043/home.html

Facebookあります！ 立山博物館